

- 社会が急激に変化・将来予測が困難な時代
 - ・VUCAの時代（不安定・不確実・複雑・不明確）
 - ・超少子高齢化（人口減少）
 - ・急速なグローバル化の進展
 - ・デジタル技術の発展
- 誰一人取り残されない共生社会の実現
 - ・インクルーシブな社会の実現
 - ・ウェルビーイングの向上
- 社会参画意識の醸成が課題
- 不登校児童生徒の急増

今こそ、特活!!

「特別活動の実践」が学級経営の充実につながり、「魅力ある学校づくり」を推進する

学校は人と人が
関わり合う社会

特別活動で実践し、学んだことが、
将来の様々な集団での生き方につながる

- **人間関係形成**（互いを理解した上で認め合い、互いのよさを生かす関係）
- **社会参画**（責任・協働・貢献）※学校は一つの小さな社会
- **自己実現**（自己のよさや可能性を生かす、自己の在り方や生き方を考え設計する）
- 非認知能力の育成
 - 学級経営の充実 ※授業と往還の関係
 - 学力向上（主体的・対話的で深い学びの実現）
- ※「学級経営」がよいほど「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすく、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす

生徒指導の実践上の4つの視点

共感的な人間関係の育成・自己存在感の感受
安全・安心な風土の醸成・自己決定の場の提供

学級活動 (1)

学級活動 (2) (3)

児童会活動
生徒会活動

クラブ活動
(小学校のみ)

学校行事

学校としての学級活動の積み重ね・小中の接続

児童生徒が問題を発見
「共通の問題」を選定
【自分もよく、みんなもよい】
ことを決める

折り合いをつけ、集団として
「合意形成」

自治的能力の育成

教師が
「共通の問題」として題材を設定

【集団思考（話し合い）】を生かし、
自己の課題に対する解決方法や
努力目標を一人一人が「意思決定」

自己指導能力や自己実現につながる
資質・能力の育成

異年齢集団で
児童生徒が**学校生活の充実と
向上を図る**ための諸問題の解決
に向けて、計画を立て、役割を
分担し、協力して運営すること
に自主的、実践的に取り組む

楽しく豊かな学校生活の創造

児童が**共通の興味・関心
を追求**する集団活動の計画
を立てて運営することに自主
的・実践的に取り組む

学校又は学年の児童生徒で協力し、
よりよい学校生活を築くための体験
的な活動を通して**集団への所属感や
連帯感**を深め、公共の精神を養う
・感動する本物の体験
・学校の文化や伝統を創る

豊かな学校文化の創造

※ 学級活動 (1) (2) (3) **特質の違い**を踏まえた学級活動の充実
学級活動を通して学級経営の充実を図り、**学びに向かう集団の基礎を形成する**

※ 児童会活動（生徒会活動）、クラブ活動
教師の適切な指導の下に、児童生徒の**自発的、自主的な活動**が効果的に展開されるようにする

思いを実現し、豊かな学級や学校生活をつくる学級活動 (1)

学級会では、児童生徒の想いや願いを話し合いの中心に据えて行う。教師は、発達の段階に応じた適切な指導・助言を行い、**児童が提案理由を踏まえながら自分たちでよりよい合意形成**ができるように指導支援する。

※ 学習過程（例）等は次ページ参照

現在の自分を見つめ、自己の成長を考える学級活動 (2)

資料を効果的に活用し、日々の生活の向上のために、児童生徒二人一人が**自らの生活や学習の目標を意思決定**し、その実現にむけて、取り組むことができるようにする。

学習過程（例）

- ①【事前】児童生徒の実態把握（アンケート等）
- ②【本時】課題の把握（つかむ）→③原因の追求、必要性の実感（さぐる）→④解決方法の話し合い（みつける）→⑤個人目標の意思決定（きめる）
- ⑥【事後】決めたことの実践（「頑張りカード」などで実践の記録）→⑦振り返り→⑧次の課題の発見、実践の継続

※ 年間指導計画に基づいて実践する

将来を見通し、なりたい自分にむけて努力する学級活動 (3)

特別活動は**キャリア教育の要**としての役割を担っている。これまでの活動を振り返るとともに、**これからの学びや生き方を見通し、個人目標について意思決定**をする。

参考資料・関連資料

※実際の学級活動（学級会）を見ることで理解が深まります。



【国立教育政策研究所刊行指導資料】

- ① 小学校特別活動映像資料（学級活動編、児童会活動・クラブ活動編）
- ② 特別活動指導資料（小学校編、中学校・高等学校編）
- ③ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する指導資料（小学校・中学校）

【県作成資料】

- ④ 映像資料「優れた指導技術の共有・普及（映像）」（「良い授業を見つけ！学力UP事業」）
- ⑤ 埼玉県小（中）学校教育課程実践事例
- ⑥ 学級経営リーフレット～よりよい学級経営を目指して～
- ⑦ 一人一人の社会的自立に向けた児童生徒支援ガイドブック～総合的な長期欠席・不登校対策～

学級活動(1)【学級会】充実のポイント

学級活動(1)は、学級や学校生活の充実と向上を目指して、児童生徒が自ら課題等を見出し、その解決方法・取扱い方法などについて、合意形成を図り、協力して目標を達成していくもの **※日々の学級経営の充実と深く関わる活動**

- ◎ **目的の明確化** (何のために話し合うのか?・本気で話し合いたいと思っているのか?) (目的や前提となる事項等が共通理解されているか?)
- ◎ 話し合いの中で、**意見のつながり**はみられるか? (傾聴する姿勢・考えの交流【理由・質問・強い共感・反対・異なる視点の提示・改善案 等】)
- 【事前】 ①事前の活動の充実(輪番制の学級活動委員会) ②適切な議題の選定 ※学級活動コーナーの活用 ③提案理由へのこだわり(話し合いの“羅針盤”) ④話し合うことの設定「どのようにするか(活動の工夫)」に重点
- 【話し合い】 ⑤解決方法の話し合い(出し合う→比べ合う(わかり合う)→まとめる(決める)) ⑥話し合いで決まったことに対して、自分が学級のために何が出来るかを考える(合意形成後の意思決定)
- 【事後】 ⑦協働し、決めたことの実践 ⑧一連の活動(事前・話し合い・事後)の振り返り (自分や友達の努力や成長を認め合う・教師が肯定的な言葉掛けを行う) ⑨次の活動への意識付け(新たな議題解決につなげる)

【望ましい議題】

- 多くの児童生徒が早急な解決を望んでいる議題 (話し合う必要性、学級として興味関心)
- 学級内の問題で、学級全員が協力しなければならない議題 (共同の問題として認識)
- 創意工夫の余地がある議題
- 学級や学校生活をよりよいものにする議題 (学級生活への期待感や充実、向上に直結)
- 児童会、生徒会から要請を受けた内容
- 学級から児童会・生徒会へ発信する内容

【合意形成のプロセス(例)】

- 意見をあわせる
- 新しい考えをつくる
- 優先順位を決める
- 少しずつ全部行う
- 条件をつける
- 共感的に理解し譲る
- 多数決を行う
- ※ **安易な多数決をしない**
- ※ **少数意見を尊重する**
- ※ 様々な意見のよさを生かして、みんなが納得できるようにする

【目的の明確化】

※「形だけ」の「学級会」になっていないか?

- 「何のために学級会を行うのか?」を明確にする。
- ※ 目的が明確であれば、豊かな学級、学校生活づくりにつながっていく。
- ※ 「提案理由」「話し合いのめあて」について、整合性をつける。

提案理由の文脈(背景)等を大切にす
(学級の現状・生活上の課題 等)

目的を“キーワード”
として示す工夫

【事前の活動を充実し、問題意識を高める】

- 児童生徒が、学級や学校における**生活上の諸問題を見出せる**指導支援
- **議題を選定**する学習場面の充実 ※望ましい議題
- **提案理由**をまとめる学習場面の充実 (①現状の問題点 ②考えられる解決の方法 ③解決後のイメージ)
- ※ 学級活動コーナー等に事前に出された意見を提示しておき、共通理解を図っておくことも効果的



【解決(納得)する話し合い】

- 「比べ合う」ことで、自分の考えが深まっていく。「比べ合う」ことで、友達への理解が深まっていく。
- 「つながりのある」発言で深める。
- ※ 話し合いでは「**聞き合うこと、分かり合うこと**」が大切。
- ※ それぞれの意見を聞き、分かり合っていく中で、「**自分にとっても、みんなにとってもよい**」ことを見つけ出す。
- ※ 「決める」場面では、話し合いの中の“理由”を確認し、提案理由及び目的や目標をもとに再考させることが大切。(多数決に頼らない)

一つ一つの意見を大切に受け止めることができるようにする。(小学校高学年や中学校段階では出された意見の背景にある相手の立場や考え方を理解しようとすることが大切)

反対意見を心配意見として発言する工夫も考えられる

【つながりのある話し合いの様子(例)】

- 議題 「一人一人がうれしくなる2学期頑張ったね会をしよう」
- 提案理由 「2学期、3年3組は友達に優しくできるように頑張ってきました。仲良く活動することはできましたが、優しい声掛けや褒め合うことが十分にできませんでした。そこで、2学期頑張ったね会を開き、2学期に頑張ったことを振り返り、声掛けや褒め合いができれば、一人一人がうれしくなって、もっと仲のよい楽しいクラスになると思い、提案しました。」
- (比べ合う場面 で)
- A 「僕は、“頑張ったのは誰でしょうゲーム”に賛成です。理由は、頑張ったところを言ってもらえたら嬉しくなるし、もっと仲良くなると思ったからです」
- B 「私は、“頑張ったのは誰でしょうゲーム”に“反対(心配)”です。もし呼ばれなかったら、悲しくなるからです。でも、ほかほか言葉弾ゲームに賛成です。ほかほか言葉を言われると心がバカバカしてもっと仲が深まると思ったからです。」
- C 「Bさんの反対(心配)意見を聞いて、頑張ったのは誰でしょうクイズに付け足しをします。Bさんが心配しているのは、呼ばれないかもしれないことに不安と思うので、クイズ係を決めて、一人一人の頑張ったところのクイズを考えてもらえばいいと思います。」 (B「それならば賛成です」) ……

【“主体的な学び”を学級活動(1)「学級会」で実現する】

- **児童生徒一人一人の想いや願い**を大切にす。
- 児童生徒の**よさや可能性**が発揮されるようにする。
- 児童生徒の**個人のめあて**を事前に明確にする工夫も考えられる。(「個人のめあて」の例)
- 提案理由に沿った意見を、言えるようにする。
- クラスメートの意見をよく聞き、話し合いについていけるようにする。
- 司会として、クラスの皆が発表しやすい言葉掛けをする。

【振り返り や 教師からの言葉がけ(フィードバック)を大切にす】

- めあてや目標に対して、児童生徒が自己評価(振り返り)をする場面を充実する。
- 教師として、一人一人の児童生徒が、どのように取り組み、どのような成長が見られたのかを教師として把握し、適切に言葉がけ(フィードバック)する。

学級会のあとに教師からの肯定的な言葉がけ(フィードバック!)

「あなたの〇〇〇という発言で、クラスのみんなが決まったことへの納得感を高めていましたね!」「みんなの意見を、うなづきながらしっかりと聴いていましたね!」「準備をしっかりとし、話し合いの見通しをもてていたから、司会として迷いなく取り組みましたね!」

学級活動(2)(3)

充実のポイント

学級活動(2)は、現在の自分の課題を見つめ、自己の成長のために、自分に合った具体的な解決方法や目標を**意思決定**し、自発的、主体的に実行することができるように**自己指導能力**を育てます。
 学級活動(3)は、現在および将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標や具体的な方法を**意思決定**し、なりたい自分を目指すことができるような**自己実現を図る力**を育てます。

自分で決めたことを、粘り強く実践

年間指導計画に基づく実践

【事前の活動】
 ○アンケートの実施
 ○キャリア・パスポートの活用



※自己の課題が確認でき、問題意識を高める資料等の提示
 ※話し合いにより、個々の考えを深めたり、広めたりする。
(集団思考を生かせるようにする)

※**具体的な実践方法等を、一人一人が意思決定できるようにする。**

・コンパクトでインパクトのある導入の工夫

・意思決定の参考となる資料を教師等から情報提供する。
 ・話し合う必然性のある問いの設定
 ・十分な活動時間の設定
 ・効果的な共有方法の工夫

・「きめる場面」に時間をかけられるようにする。
 ・意思決定したことを相互評価し、改めて意思決定する工夫も効果的

特別活動は、キャリア教育の要

一人一人が将来に向けて希望や目標をもち、その実現のために自分のよさや可能性を生かしながら様々な役割を果たしたり、具体的に実践したりすることを繰り返し、自分の成長を生み出して、自分らしい生き方を実現していくことが大切。
 学習指導要領には、「特別活動」がキャリア教育の要として位置づけられている。

努力の結果だけでなく、目標実現に向けた児童生徒の過程を見取り、励ますことが大切。連絡帳やお便り等で家庭との連携を図ることも考えられる。

【事後の活動】

決定したことを実践・記録

がんばりカード(例)
 友だちを大切に

1 わたしの目ひょう
 毎日、友だちにやさしいことばを5回以上かける。

2 行動をふりかえろう!

15日	16日	17日	18日	19日
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

↓
 振り返り
 ↓
 教師等からのフィードバック
 ↓
 実践意欲の継続化
 日常生活での意識化
 (実践を「見える化」する掲示等)

学校全体で特別活動を推進するために

各校で特別活動を推進している特活主任さんから聞き取りました

Qどのように「特別活動を推進」していますか?

- 特別活動主任としてリーダーシップを発揮(「特活だより」などで情報提供を心掛ける、個別に具体的なアドバイスをする、研修を企画する等)
- 管理職、主幹教諭(教務主任)、研究主任、研修主任、学年主任等の理解と協力を得る
- 生徒指導主任(生徒指導部)と連携(発達支持的生徒指導の推進)
- 「特別活動部会」を効果的な運用(「授業コマ」に部会を開催している学校もある)
- 研修の充実(模擬学級会・相互の授業参観・自主研修会の実施等)
 - ※授業実践等を見合う、語り合う職員室風土の醸成
 - ※特別活動を学校研究課題の「柱」に設定する
- 学級、学年の枠組みを越えた合同オリエンテーションを実施
- 学級活動と学校行事、生徒会児童会活動との連携、連動
- 小中の連携を推進(小中学校相互の授業参観、情報交換、学級活動グッズの共有、児童会と生徒会の交流・連携等)
- 校内掲示としての特別活動コーナーの充実(各種取組の「見える化」)
- 学級会グッズ、学級会ノートの整備
- 児童生徒の意見表明や社会参画に関する取組の充実

チームワーク
 対話の文化を広げる

特別活動推進の効果

特別活動を推進している学校の先生方から聞き取りました

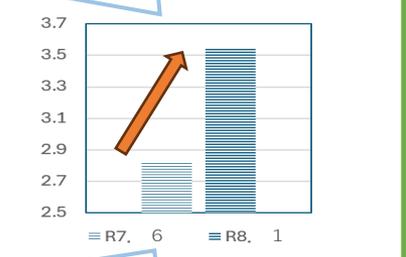
Q特別活動を推進して、どんな子供の成長の姿が見られますか?

- ・友達の発表に対して、**熱心に耳を傾ける様子**が見られるようになった。
- ・人の意見を聴いて、その意見を取り入れて自分の意見を言える様子が見られるようになった。
- ・**他教科でも**友達の意見を聞いて、他の友達の意見とのつながりを気しながら発表できるようになった。授業の中で学習内容を深める「意味のあるつぶやき」が多くなった。
- ・何かにつけて話し合いで解決しようと考え、それぞれの関係性や自身の立ち振る舞いを考えながら学習や生活をする様子が見られた。
- ・**「自分たちでやってみよう」「自分たちでやってみたい」「みんなのためにやってみよう」という意思や意見**がたくさん出るようになってきた。役割を任せられると、一層やる気を見せていた。
- ・困っている友達をそのままにせず、声をかけるなど、友達同士で関わり合う姿が多く見られるようになった。
- ・保健室に入室する児童がとても少なくなった。特に、教室に行きたくないと訴える児童が減少した。ささいな児童間のトラブルが大幅に減った。

- ・多様な他者との対話や協働
- ・当事者意識、参画意識の向上
- ・支持的風土の醸成
- ・他教科授業との往還

学級活動を継続的に研究・実践した学校の質問紙調査の結果

『児童生徒の望ましい人間関係』が向上



質問項目①: 学校の友達は自分のよいところを認めてくれますか
 質問項目②: あなたの学級は色々な活動にまよって取り組んでいると思いますか
 ※各質問の回答は4段階から選択
 4: 思う 3:どちらかと思う 2:どちらかと思う 1:思わない
 (埼玉県学級経営リーフレット質問項目)
 ※上のグラフは、4段階の数値の平均値であり、上記の2つの質問項目を合算したものの